

ロシア化進む 北方領土

「愛媛から遠く、あまり感じないかもしれないが、まだ占領されている場所だ」。衆院沖縄北方問題特別委員会委員の西岡新氏（比例四国）が5月下旬、「ビザなし交流」で国後島を訪れた。現職関係国会議員の北方領土訪問は初めて。現地の様子や北方領土問題を聞いた。

ビザなし交流で初訪問

西岡氏（衆院）に聞く

（聞き手・松本尚也）

「北方領土問題にどう当てるか。」

（日本に）戻ってくるチャンスは安倍政権を逃すのではないか。日本が安定政権になるの

ない島というのではなく、（返還に向け）国民の認知度を上げないといけない。領土問題は与党も野党もない。地元にも野党を呼ぶなどの啓発活

もあつた。ロシア化と日

返還実現 現政権が好機

は非常にまれで、（ロシア側でも）プーチン大統領の支持率が高いうちにやらないと領土問題はきかない。日本に返ってこ

動ができればと思う。一國後島の印象は。思ったほど社会資本整備ができていなかったが、訪問を続けてきた人

本離れが進んでいる。日本の存在感を示す必要がある。一島のロシア人と領土問題を話したか。



ビザなし交流で国後島を訪れた西岡新氏（前列中央）。両隣は北方四島の元島民
— 5月26日（西岡氏提供）

40年近く島に住む夫妻の家にいくと「領土問題があるのは分かっている。孫の代では仲良くしてもらったら」と言っ

た。親的な部分もあった。島民や議会担当者などの意見交換会もあったが、「日本との関係は大事だ」というくらい

の話しかなかった。

「日本の元島民の思いはどつだったか。」

（語り部に）旧ソ連の侵攻から始まり、全財産を取られ、本土に帰っても頼る人がいないというつらい思いを聞いた。「故郷を取り返してほしい」という人もいた。

「ビザなし交流」は日本人と四島在住ロシア人との相互理解、領土問題の解決を目的に1992年に始まった。パスポートや査証（ビザ）なしで相互に受け入れ合い、日本側からは延べ約1万1500人が北方四島を訪れた。

平成26年6月8日（日）

愛媛新聞掲載